

こどもと楽しむ自然の情報

# しぜんにタッチ

## 第6号 セミはともだち

▼つくってみよう▼  
セミのぬけがらをたくさんみつけたら、それをつかって、こうさくをしてみよう。  
せみのようちゅうが、やきゅうたいかいをしているよ。こんなこうさくもたのしいね。



▼やってみよう▼

セミがたまごをうんだ「かれえだ」をさがそう。  
このきずは「さんらんこん（産卵痕）」といって、  
セミがたまごをうんだところ。たまごはあるかな？  
たまごのついたかれえだをきりふきでぬらして、あたたかいところにおいて  
おくと、こめつぶよりちいさな、しろいようちゅうがでてくるよ。



蘯  
ホタル  
蓄

### UNCHIKU 「都会はクマゼミだらけになる!?

クマゼミは日本特産のセミで、昔から九州などに多くいました。大阪では1970年代まではアブラゼミが多く、クマゼミは珍しいセミでしたが、1980年代になるとクマゼミの方が多くなり、いま大阪市内で見られるセミは、ほとんどがクマゼミになりました。また、1990年頃にはクマゼミを見かけなかった東京や千葉でも見られるようになりました。クマゼミはさらに東へ北へと分布を拡げています。

クマゼミが分布を拡げたのは、卵や幼虫が移植される樹木と共に運ばれて、都市公園や街路樹で羽化し産卵したからと考えられていますが、大都市で激増したのはなぜでしょう？ 温暖化や都市のヒートアイランド現象で卵が越冬できる暖かさになったことや、都市の乾燥した地面でも大きくて力が強いクマゼミの幼虫の方が木の根に取り付きやすいこと、樹木の少ない都会でも遠くまで飛べるクマゼミの方が鳥などの捕食者から逃げやすいことなど、さまざまな要因があると言われていますが、光ファイバーなどの人工物にも産卵するほどのクマゼミのたくましさが理由であることはまちがいなさそうですね。

そんなたくましいクマゼミですが、この頃またアブラゼミの勢力が復活してきたところもあるそうです。自然は不思議ですね。日本にいるおよそ30種類のセミのうち、大阪では12種類が確認されていますが、森がなくなると森を好むセミは生き残れなくなります。大阪にもいろいろなセミがくらせる多様な環境を残したいものですね。



ぬけがら調査による分布。  
この他思ひがけないところで見つかっている。

生命の神妙を感じよう！ 感動を子どもたちと！

観察会情報はホームページの「自然イベント」または「参加者募集」  
をごらんください。



ホームページは  
こちらから

サブちゃん  
岡田三郎



### 野外で活動するときのお約束

長そで、長ズボン、帽子をかぶってね。  
のどがかわいでいるなくても、どちゅうで  
かならず水やお茶などをのみましょう。



「しぜんにタッチ」第6号 セミはともだち  
編集 しぜんにタッチ編集部  
まんが 岡田三郎  
発行 2021年 7月 16日

公益社団法人 大阪自然環境保全協会  
〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13-202  
Tel: 06-6242-8720 Fax: 06-6881-8103  
<http://www.nature.or.jp/>

HOTARU 株式会社  
〒559-0006 大阪市住之江区浜口西 1-13-3  
Tel: 06-6676-1900 Fax: 06-6676-5522  
<https://hotaru.tld/>

この情報誌に対するご意見・ご要望、および配布のご協力をぜひよろしくお願ひいたします。

ご意見 Mail: [touch@n-osaka.jp](mailto:touch@n-osaka.jp)  
くわしくは <http://www.nature.or.jp>  
本誌記載の記事・写真・イラストの無断転載を  
禁止いたします。



この情報誌「しぜんにタッチ」は、こどもたちとそのご家族に、自然のおもしろさを発見するきっかけにしてもらいたい、という思いで作りました。今、自然に触れ合うことが少なくなりましたね。こどもたちだけではなく、お父さんお母さんも、自然の中で存分に遊んだ経験を持つ人は少ないのではないでしょうか。ときには、周りの自然をじっと観察してみませんか。ぜひお子さんといっしょに楽しんでください。

この情報誌は(公社)大阪自然環境保全協会とHOTARU様が協力して、不定期で発行しています。

**あさかで  
くみられるセミ**

おきあがって、しつかりつかまつた。こんどはおしりをぬくぞ～!

だいせいこう!

しつかりつかまつて、はねをのばすぞ～!

やつとはねがのびた! さあ、ゆっくりかわかそう!

さて? このセミはなに?

ゴール!

**セミのようちゅうが、おとのせみに「だいへんしん」するのを、みたことはある?**

これを、「うか(羽化)」といふんだ。ゆうがた、木にのぼるようちゅうをみつけて、じっとかんさつしてみよう。そこでかんさつするのがむずかしかったら、そつといえにつれてかえり、カーテンやあみどにつかまらせあげてもいい。

すきなところまでのぼって、うかをはじめるよ。

セミはおとなになつたら、こうびをして、かれた木のえだなどに、たまごをたくさんうみつける。

そのたまごがかえって、小さなようちゅうになると、土にもぐり、5年から6年ずっと土の中でくらしている。だから、ことし羽化したセミとあなたは、どうきゅうせいかもしれないね。

おとなになったセミは、どのくらい生きているのかな?

たくさんのおとなのセミはねに、ばんごうをかけてしらべた日本のおとなの高校生がいる。

それでセミはおとなになってから、1ヶ月ちかく生きていることが、しょめいされたんだよ。

せみにはまだまだわからないことがいっぱい。みんなでセミのふしきをさがしてみよう。

**スタート!** ようちゅうをみつけよう

ゆうがた、セミのぬけがらがついている木の下や、じめんにちいさなあながあいているところは、ようちゅうがでてくるかもしれない。

**クマゼミはねがみどりいろ**

**さんらんのようす(クマゼミ)**

**アブラゼミ**

**ジイー・ジイー・ジリジリシリ…**

**ツクツクボウシ**

**オーシンツクツクツクツク…**

**オージンツクツクツク…**

**ミンミンゼミ**

**ミンミンミンミンミンミン…**

**はねがすけているんだ。**

**セミのしんたいけん**

**セミの口**

セミは、ようちゅうの時も、おとのせみになつてからも、たべものは木のしるだけ。だから口はまるでストロー。先のとがったところを、ようちゅうは木のねに、おとのせみは木につきさせて、木のしるをすっている。

**セミの目**

ふたつのふくがん(複眼)と、あたまのまん中に小さな3つのたんがん(単眼)がある。たんがんは、あかるさをがんじるところだといわれている。

**オスヒメス**

おとのせみは、おなかによろいのようなものをつけていたのがオス。これは、ふくべん(腹弁)といい、おとをおあくするはたらきをする。メスはない。ようちゅうは、おしりのところのかたちがちがうよ。

**おとのせみ**

**オス** **メス**

**ようちゅう**

**オス** **メス**

**たてにわめがある**